

教育学・心理学	【代表的な研究テーマ】 ☐ 幼児の社会情動的スキルを育む運動プログラムに関する研究 ☐ 小学生の社会情動的スキルを育む体育授業に関する研究
key word	
■ 幼児 ■ 小学生 ■ 非認知能力 ■ 運動遊び ■ 体育授業 ■ 体力・運動能力	課題解決に役立つシーズの説明 近年、子どもたちが目標に向かって粘り強く取り組む力、他者と関わり協力する力、自分の感情や行動を調整する力から成り立つ「社会情動的スキル」の育成が重視されています。これらの力は、子どもの学習や学校生活、さらには将来の社会生活を支える重要な力です。これまでの研究では、社会情動的スキルを「忍耐力」、「目標への情熱」、「自己制御」、「社交性」、「敬意」、「思いやり」、「自尊心」の7つの側面から捉え、小学生を対象として、その実態、発達の特徴および体力・運動能力との関係について検討してきました。これらの研究成果を基盤として、現在は「社会情動的スキルをどのように育むか」という視点から、幼児の運動遊びや小学校体育に着目した研究を行っています。
	
山田 淳子 Junko Yamada	
教育学部 准教授	
【プロフィール】 ●専門分野 体育科教育学 ●略歴 ・1994/04-1997/03 草津市立老上小学校教諭 ・1997/04-2005/03 草津市立草津小学校教諭 ・2005/04-2010/03 国立大学法人滋賀大学教育学部附属小学校教諭 ・2010/04-2019/03 草津市立山田小学校教諭 ・2019/04-2020/03 草津市立老上西小学校教諭 ・2020/04-2022/03 滋賀大学教育学部 講師 ・2022/04-継続中 滋賀大学教育学部 准教授 ・2025/3 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程修了【博士(学校教育学)】 【主な社会的活動】 ●所属学会 ・日本体育・スポーツ・健康教育学会 ・日本発達学会 ・日本体育科教育学会 ・日本スポーツ教育学会 ・日本幼児健康教育学会 ●資格 ・公認指導者・中級レクリエーションインストラクター ・スポーツ・レクリエーション指導者	   写真: こども園における運動遊び実践の様子 【1】幼児における社会情動的スキルを育む運動プログラムに関する研究 幼児期から児童期は、身体を動かしながら他者と関わる経験を豊かに積み重ねる時期です。そこで、運動遊びの中に、友達と協力する、相手の気持ちを考える、自分の感情や行動を調整する、失敗しても再び挑戦するといった経験を意図的に取り入れた運動プログラムについて研究しています。実際の教育・保育現場でプログラムを実践し、体を動かす楽しさを味わい、体力・運動能力の向上を図るとともに、社会情動的スキルの育成につながる運動プログラムの内容や指導・支援のあり方を検討します。 【2】社会情動的スキルを育む体育授業に関する研究 小学校体育は、運動技能や体力を高めるだけでなく、仲間と協力して課題を解決したり、自分や友達のをさを認めたり、目標に向かって粘り強く取り組んだりする学習の場でもあります。そこで、体育授業における子ども同士の関わりや教師の働きかけに着目し、どのような授業づくりが児童の社会情動的スキルの育成につながるのかを検討しています。特に、子どもが運動や体育の楽しさを実感し、主体的に運動に取り組みながら、体力・運動能力を高めるとともに、社会情動的スキルを育むことのできる体育授業をめざしています。 企業・自治体へのメッセージ ・幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、自治体等と連携し、子どもの社会情動的スキルを育む運動遊びや体育授業に関する研究を行っていきたく考えています。 ・運動遊びや体育の授業を通して、子どもの心身の健やかな育ちを支える教育・保育のあり方を、現場の先生方とともに考えていきます。